

サステナブル活動の 象徴となる事業 北海道の森林経営



北海道ニッタ株式会社
代表取締役社長

勝山 安久

北海道ニッタは、「NITTAグループ社有林管理方針」に基づき、将来を見据えた「森林経営計画」を策定・運営することにより、森林の有する多面的な機能を発揮させ、地球環境の保護と生物多様性の保全に努めることを使命としています。社有林の整備・施業に関しては、北海道庁が定める「北海道森林づくり条例」「北海道森林づくり基本計画」に基づいて、「水源涵養林」、「山地災害防止林」、「生活環境保全林」、「木材等生産林」に区分し、それぞれの森林について目指す姿を描くことで、持続可能な森林経営に取り組んでいます。

ネイチャーポジティブ経営

北海道ニッタの森林経営はネイチャーポジティブ経営を体現するものとして、当社事業活動を通じて持続可能な社会実現への貢献を目指しています。具体的な取り組みとして、人工林においては、林業経営の基本である「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の有効活用によって、持続可能な森林経営を忠実に実施しています。天然林に関しては、水源涵養機能の発揮と動植物の貴重な棲み家を維持管理することにより、地域環境に貢献することを目的として活動しています。また、これら当社の取り組みを、国が主導する「30by30自然共生サイト」や「J-クレジット制度」等へ登録を行うことで、森林経営が生み出す無形の価値を顕在化させ、当社グループの持続的な企業価値向上につなげることを目指しています。

ニッタが参画するイニシアティブ



環境省は、生物多様性の保全に貢献する民間の緑地等を認定する制度を実施しており、ニッタ株式会社の「十弗の森」は2024年3月に認定されました。植物・鳥類・哺乳類の多くの貴重種が確認されており、また成長に時間を要するミズナラの巨木が存在することから、非常に貴重な森林資源として高く評価されています。

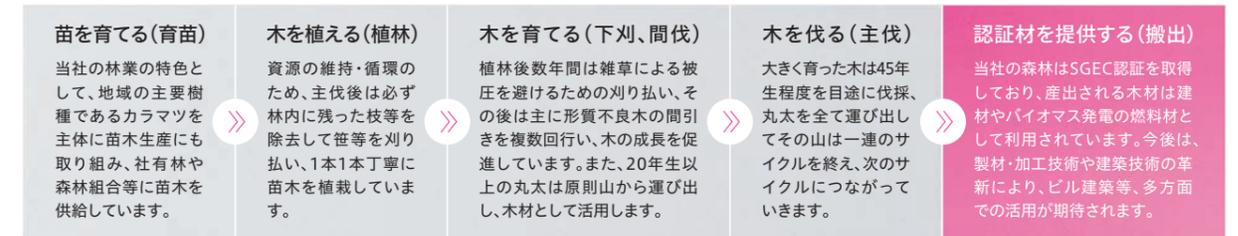


北海道の森林資源を活用したクレジット化を目的に申請を行い、2025年4月に北海道ニッタの森林管理プロジェクトが国の認証制度に登録されました。今後は、森林管理による温室効果ガスの削減・吸収量がクレジットとして数値化され、環境・事業への貢献を可視化していきます。

北海道の森づくり

北海道ニッタは「十勝の森を通して全ての生き物が幸せに暮らす次の100年をつくる」ことを目標としています。次世代に向けた持続可能な森林経営とサービスを提供することに加え、ひたむきで長期的な「森づくり」を通じて、気候変動への対応、生物多様性の保全、水源涵養、災害防止等の社会課題に対して、森林が持つ公益的機能を最大限発揮できるよう、取り組んでいきたいと考えています。当社の森づくりは、森林資源を次世代に引き継いでいくために、森づくりのサイクルを継続的に実施しており、特に苗木から育てることを重視して取り組んでいます。

▼森づくりのサイクル



苗木づくりは森づくりの要です。当社は年間約50万本の苗木を自社生産し、自社森林への植林に加え、森林組合を通じて近隣業者にも提供しています。苗木は天候の影響を受けやすく、すぐに調達できないため、新規参入や小規模事業者には難しい分野です。当社は種から伐採まで一貫して林業を行い、苗木の供給を通じて林業の活性化と地域貢献に取り組んでいます。

生物多様性に関する調査

ニッタの所有する天然林においては、安全上の懸念や森林保護の観点から必要と考えられる場合を除き、極力伐採等は行わず、多様な動植物の貴重な棲み家を守るため適切に保全・管理をしています。

また2021年度より生物多様性調査を実施中、当社の森林資源には国や北海道が指定する希少種や絶滅危惧種の生息が確認されています。



ミズナラの大径木

調査ターゲット	2021年度				2022年度				2023年度				2024年度				2025年度			
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
植物	← 調査 →		リスト化																	
哺乳類					← 調査 →		リスト化													
鳥類					← 調査 →		リスト化													
昆虫													← 調査 →		リスト化					
その他									← 追加ターゲットの検討 →								← 必要に応じ追加調査 →			

企業価値向上に向けた地域社会とのかかわり

北海道ニッタでは、林業を通じた地域社会との関係性構築だけでなく、木育活動やマルシェ等ファミリーが気軽に参加できるイベントを開催しています。多岐にわたる活動や情報発信を通じて「ニッタの森」のファンを育てること。そして、自然保護や持続可能社会づくりに貢献する企業ブランドを構築し、ニッタグループのさらなる企業価値向上に貢献する取り組みを推進します。

●Instagram「森と笑う」

2025年開設。地域イベントの発信をはじめ、事業活動の報告、スタッフ紹介等を通じて森林経営や森づくりへの興味や理解を促すとともに、地域社会との距離を縮めファンづくりを目指す。



詳細は
Instagramにて
ご覧いただけます。

●四季のイベント「森とひろば」

地域の方々が家族で気軽に参加できるような自然に触れ合えるイベントを企画運営し、地域社会や住民との交流を図る。



森林資源の維持・保全による地球環境問題への貢献

ニッタ株式会社は1906年に櫛^{かしわ}の樹を求めて北海道十勝地方へ進出し、以来100年以上にわたり、育苗・植林・間伐・伐採等の森林事業を行ってきました。当時と変わらず今も「森林を通じた社会貢献」を大切にしています。

●次世代に向けた取り組み

当社グループは、森林事業の一環として植林に必要な苗木の生産を行っています。苗木生産農家の減少が著しい中、北海道地区における苗木の安定供給と効率的な苗木生産を行うことで地域に貢献しています。

また、次世代に向けた取り組みとしてクリーンラーチ（いわゆるエリートツリー）の採種園も造成しています。この樹木は一般の樹木より著しく成長が早く、建築材としての需要だけでなく、将来のCO₂吸収源として期待が高まっています。

本格的な苗木の生産までにはまだ十数年を要しますが、地道な活動を続けていきます。



クリーンラーチ(エリートツリー)の採種園

●地域とのコミュニケーション

社有林が存在する北海道では、森林と人との関係を主体的に考えることができる人材を育成しようと、北海道独自の「木育」という活動に力を入れていて、各方面で活動を行っています。そこで当社でも、地域との関係を強いものにする方策の一環としてその木育活動に協力し、独自の施策を実行し、ここ数年で行った具体的な活動は以下の通りです。

以下の活動の他、地域の方々に、森林に対して興味を持ってもらえるような活動を、関係各方面と協力しながら数多く行っています。今後も引き続き積極的な活動を展開し、一人でも多くの地域の方々に、森林をメインとした自然環境に興味を持っていただけるよう、鋭意努力していきます。

植林・枝打ち 研修場の協力

製材や建築等に携わるボランティアによる植林や枝打ち研修に提供



アイヌ団体への 樹皮提供

先住民族であるアイヌの方々が祭祀で着用する衣装の原料として用いられる樹木の皮を提供



若手林業就業者の 勉強の場を提供

北海道が主催する現地研修に社有林を提供



北海道の研究協力

北海道が研究する新しい技術の試験研究地として社有林を提供



軽労化試験の協力

軽労化対策として各種企業・団体等が取り組む機械化の現地試験用に社有地を提供



地元小学校での 社会科授業

社会科授業の一環として、森林管理教育の実施

